

感動をありがとう デフリンピック！

観戦ツアーを企画して

手話サークルでデフリンピックの陸上競技の観戦ツアーが決定した時、「わ～い」という気持ちと「どうしよう」という気持ちが入り混じりました。競技日程表の字があまりに小さくて「間違いなくこの日にこの競技」というのを確認するのに気が遠くなりました。そして、電車の乗り継ぎをスマホで調べると聞いたことしかない都会の路線が登場し目の前がかすみしました。本当にこの計画で大丈夫だろうか・・・。

他団体と講習会の受講生にお誘いしたところ、思いがけず大勢の方と共に観戦に行けることになりました。手話サークルでの遠出はコロナ禍以来久しぶりです。総勢 11 名。はぐれることなく現地に到着しました。

競技場では陸上競技をやっていました。そこで初めて見る生のデフアスリートの姿を見て、間違えていなかった、あ～よかった～と、ほっとしました。

今回の 2025 東京デフリンピック。100 年目という貴重な機会にデフアスリートと同じ空気を感じられて、思い切って観戦ツアーを企画して良かったと心の底から思いました。参加のみなさん、ありがとうございました。(五十嵐 陽子)

2025 年 12 月・2026 年 1 月の予定

12 月 4 日 (木) 本日のサークル活動は、**福祉バザー準備で部屋が使えないためお休みです**

12 月 11 日 (木) 10:00～11:30 学習：ろう運動 福祉センター地下研修室

12 月 18 日 (木) 10:00～11:30 クリスマス会 福祉センター地下研修室

1 月 8 日 (木) 10:00～11:30 福祉センター地下研修室

1 月 15 日 (木) 10:00～11:30 学習：ろう運動 福祉センター地下研修室

1 月 22 日 (木) 10:00～11:30 福祉センター地下研修室

1 月 29 日 (木) 10:00～11:00 福祉センター地下研修室

お問い合わせ shuwamomiji30@yahoo.co.jp

デフリンピックキャラバンカーが 福生市にやってきました

11月11日(火)8時45分、市役所車寄せにろう協、もみじ、福手の会の全員が集まりました。全国各地を巡ってデフリンピックをPRしてきたキャラバンカーが福生にやってくるのです。ピンクのバンが道を曲がってきた時には歓声が上がりました。車に積まれたPR用の看板をみんなで組み立てたり、展示したり、メダルのレプリカを飾り、隣には白手袋(決して素手で触ってはいけません)。



刻々とセレモニーの時間が迫るなか、道行く人が立ち止まり、ケーブルTVのカメラの登場、そしてスマホでの撮影部隊。

いよいよ始まります。加藤市長のご挨拶をいただき、次に東京都聴覚障害者連盟の田原副理事の挨拶、ろう協の会長の挨拶、福生市公式キャラクターのたっけーが登場し、会場は最高潮に。最後はサインエールの練習です。ろう協がリードして「いけー!!」「大丈夫 勝つ、大丈夫勝つ、勝つ!!!」「日本、金メダルをつかみ取る!」をパネルの絵にあわせて観客一丸となって応援できるよう練習しました。



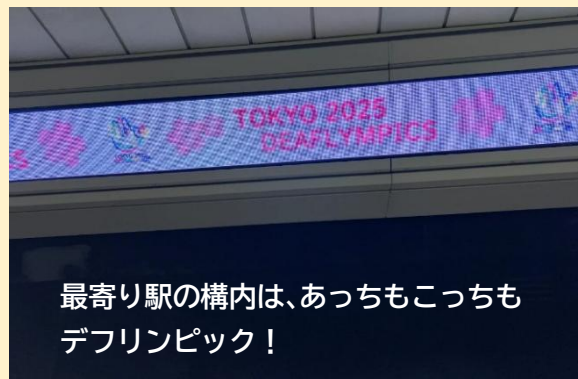
30分はあっという間に終わり、また元通り片付けて、何事もなかったかのようにキャラバンカーは羽村へ向かいました。このセレモニーでデフリンピックに興味を持った市民が1人でも増えたことを願っています。あと4日、11月15日(土)には開幕です。ワクワクドキドキします。



駒沢陸上競技場に行ってきました

■人生初のデフリンピック観戦。サークルの皆さんと出かけたので、どこか遠足のような気分でした。

会場ではあちこちで手話が交わされ、外国の手話の動きも新鮮で雰囲気そのものがとても印象的でした。競技だけでなく、スタートランプやユニバーサル表示、翻訳タブレットなど“伝えるための工夫”にも目がいきました(タブレットは残念ながら見られず)(KIKI ちゃんがめちゃくちゃ綺麗だった)。



もっと多くの人にこの大会が知られ、デフリンピックが広く根づいていくことを願っています。(Y)

■デフリンピックが終わった。百年目の大会であり、日本で初めての大会として、毎日の新聞・テレビに、聴覚障がい・聾文化・共生・手話・サインエールなどの言葉が並んだ。

結果として金メダル16個を含むメダル51個はよかったし、10万人と予測した観客が28万人だった

とか。遥か彼方で試合をする日本チームを、決められた場所で立ち見のボウリングは残念だったが、佐藤選手が来てくれたのはとてもうれしかった。脚光を浴びなかった予選敗退の選手も含め、一人ひとり大変な日々だったはずだ。障がいを持つゆえに迫害や差別を受け、好きなスポーツも自由にできない環境での努力だったと思う。

少しでも認知度が上がったデフリンピックを機会に、今後どれだけ手話が、障がい者への共生の思いが進んでいくのか、この大会の成果はこれからだと思う。(I)

■競技場では、陸上競技、走り高跳び・棒高跳びなど数種類の競技に挑んでいました。選手たちの一生懸命をサインエールで応援。私たちの応援は届いたはず。目の前でメダルを獲得した選手、予選を通過し本選に出場した選手、中距離走を走り切った選手。選手たちの一生懸命に大感動の日でした。(M)



■手話の先生やお仲間とデフリンピックの応援に。手話は顔の表情と合わせて表現。嬉しいや大丈夫を真顔でやると「違う!違う!」とだめだしが! (笑)

顔の表情と気持ちが合っていないとポーカーフェースとは真逆。顔の筋肉たくさん使って女優のように気持ちを表す。デフリンピックは音のない静かな応援なのにとてつもないエネルギーにあふれている。手話と表情とボディランゲージ、抱き合って涙する姿、言葉より表情とボディランゲージ、音のないエネルギーの声飛び交う。今ココ、青空が、紅葉が応援していた。行けてよかった。誘ってくださった先生、ご一緒して頂いた皆さま、ありがとうございました。



■待ちに待ったデフリンピックの陸上競技観戦。世界大会の空気、選手の気迫や会場の熱気を生で感じられてワクワクしました。それだけでも特別なのに、まさかの山田真樹選手に会えて、一緒に写真まで撮れたなんて本当に幸運でした。一生忘れられない思い出ができました。(K)

■3月には栗野達人氏を講師に講演会、事前勉強会、サインエールを覚えたりデフリンピックを迎えるまでその日を楽しみに活動しました。いよいよ18日にはサークルで陸上競技を観戦に、サインエールで思い切り応援してデフリンピックはあっという間に終わりました。

オリンピックとの格差を感じたり複雑な思いもありましたが、選手の皆さんの活躍に感動を頂いてこちらが元気を頂きました。山田選手と一緒に撮った写メは我が家の家宝(笑)(N)



■ここは、東大和市のボウリング場「BIGBOX」。

11月20日(木)に手話サークルもみじ・手話サークル福手の会・福生市聴覚障害者協会そろって繰り出しました。

しかし、観客席のないボウリング場は、整列入場と、1時間30分の入れ替え制。この写真の一番奥が日本チームのレーンですが、まるで見えません。残念！

日の丸を振っていたら、日本チームの選手が通りかかって、お話ができました。

■「デフリンピック」、講習会の試験に出るからって覚えたけれど(当時は、オリンピック委員会が「デフリンピック」の名称を認める前の「世界ろう者競技大会」だった。デフリンピックは2001年から)、日本で開催されて、観戦もできて、ボランティアで活動もできるなんて、大会が終わった今も夢を見ているようだ。音のない競技場で躍動する姿、街の中にあふれる笑顔と手話。東京は、日本の社会は、この12日間をどう感じたのだろう。これからどう変わっていくのだろう。ワクワクはまだまだ続く。(S)



■東京2025デフリンピック閉会式

選手たちもスタッフも、観客席の人たちも、最後の時間を楽しんでいます。

■東京2025デフリンピック閉会式のクライマックス

太鼓の音が鳴り響く中、みんなで「盆踊り」。きこえない、きこえにくくても、みんなが一緒に楽しめるプログラムでした。会場はデフリンピックカラーに照らし出されて、それはそれはきれいでした。

ありがとう、デフリンピック。ありがとう！



夏季デフリンピック次回開催地はアテネに決まりました。(11月30日発表)